

# シリーズ 「知っておきたい感染症」

## 皮膚感染症の話

公立学校共済組合近畿中央病院  
皮膚科部長

たるたに まさひと  
樽谷 勝仁

感染症の中でも皮膚に細菌、ウイルス、真菌（カビ）がついて発症するものを皮膚感染症といいます。おもな皮膚感染症の種類とその症状についてお話しします。

### 細菌による皮膚感染症

#### 伝染性膿痂疹（とびひ）

子供が夏場にかかりやすい皮膚感染症で、虫刺されやあせもなどを掻いた部位に、黄色ブドウ球菌や溶血性連鎖球菌（溶連菌）が侵入することで発症します。かゆみをとまなう小さな水ぶくれができ、それが破れると、ジュクジュクした汁が出たような状態になります。溶血性連鎖球菌（溶連菌）によるものではかさぶたができ治りにくいという症状が起こります。かきむしったところの滲出液、水ぶくれの液を触ったりすることで次々に他の子供にうつります。治療は抗生物質の飲み薬と塗り薬ですが、全身に広がってしまうと治りが遅くなるので水ぶくれを発見したらすぐに皮膚科か小児科を受診してください。



#### 毛囊炎

毛穴の奥の毛包に菌（主に黄色ブドウ球菌）が感染することで生じる炎症のことで、かゆみ、痛みなどをともなわない赤いブツブツができます。男性はひげそりの後に発症することが多いです。女性では脱毛のためにカミソリを当てることで起こったりします。治療は毛囊炎が生じている範囲が狭い場合は抗生物質の塗り薬ですが、広がってしまった場合は飲み薬も併用します。

#### 蜂窩織炎

皮膚の比較的深いところから皮下脂肪にかけての細菌感染による化膿性の炎症で、傷、やけど、水虫、湿疹などから黄色ブドウ球菌や連鎖球菌などが入ることで発症します。下肢に起こりやすく、皮膚の広い範囲が赤く硬くなって腫れ上がり、熱感や痛みを持ちます。また発熱を伴うことが多いです。さらに、時間が経つと腫れた部分が膿んでその皮膚が破れると深い潰瘍ができることもあります。治療は抗生物質の点滴もしくは飲み薬ですが、腫れている部分は安静にしないとなかなか治りません。蜂窩織炎が発生しやすい下肢は、ずっと足を下げて座っていると腫れが退きませんので、入院安静が必要となることがあります。



### ウイルスによる皮膚感染症

#### 単純ヘルペスウイルス感染症

単純ヘルペスウイルス1型、もしくは2型の感染による感染症です。感染力は強く、患部に直接接触する以外に親子や夫婦など親密な間柄でうつりやすい病気です。1型は顔面、特に口のまわりに、2型は下半身、特に性器に感染しやすいといわれており、代表的なものに、口唇ヘルペスと性器ヘルペスがあります。病変部に小さな水ぶくれの集合体ができるのが特徴で、発熱、リンパ節の腫れなどをともなうこともあります。また、ヘルペスウイルスは、一度感染すると、神経節に潜り込んで生涯棲みつてしまうので、一旦症状が治まっても、発熱、紫外線、性交、歯科治療などの刺激やストレスや癌になることを含めた免疫の低下などで潜伏ウイルスが増殖して再発をくり返すことがあります。一般に2型の方が1型よりも再発頻度が高

いです。治療は症状が軽ければ抗ウイルス剤の塗り薬、ひどくなるようであれば抗ウイルス剤の飲み薬です。

### 水痘 (水ぼうそう)

はじめて水痘・帯状疱疹ウイルスに感染したときに起こります。患者さんのくしゃみやせきによって飛沫感染する感染力が強い病気です。感染後2週間ほどの潜伏期間を経て、発熱、虫刺されに似た赤い発疹が現れ、やがてそれが水ぶくれになって全身に広がります。1週間ほどで水ぶくれが乾きかさぶたになって治まります。まれに合併症などにより重症化することがあります。治療は抗ウイルス剤の飲み薬や点滴ですが大人の場合には症状が重くなり入院が必要になることが多いです。

### 帯状疱疹

水ぼうそうを起こした水痘帯状疱疹ウイルスは、神経節に潜伏し続け、宿主の免疫力が低下すると再活性化し帯状疱疹を起こします。帯状疱疹になると、痛みをともなう水ぶくれが知覚神経に沿ってあらわれます。中には病変が広範囲になることもあります。他のヒトから感染して帯状疱疹になるわけではありませんが、水痘にかかったことがないお子さんが発疹に触れると水痘としてうつることがあります。治療は抗ウイルス剤の点滴もしくは飲み薬ですが、神経痛が残ることもあります。

### 疣贅

いわゆるイボのことで、ヒトパピローマウイルスの感染によって生じます。感染力は弱いですが触ったりするとヒトに感染させる可能性もあります。このウイルスには多くの種類があり、子供の手足にできやすい尋常性疣贅、若い女性の顔にできやすい扁平疣贅、足の裏にできる足底疣贅、性器にできる尖圭コンジローマなど、いろいろな種類の疣贅があります。治療として液体窒素を用いた冷却療法や電気焼灼法などがありますが、治りにくいことも多いです。

### 伝染性軟属腫 (水いぼ)

伝染性軟属腫ウイルスによる皮膚への感染症で大きさは米粒大でやわらかく、圧すると粥状

の物質が排出されます。比較的感染しやすいものです。大人になると免疫ができて感染しなくなりますが、およそ小学校高学年までは感染の可能性があります。治療としてはピンセットでつまみ取る方法が一般的ですが痛みを伴いますので時間はかかっても治るので放っておいても良いという考えの先生もいます。

## 真菌 (カビ) による皮膚感染症

### 白癬

白癬菌の感染によって起こる感染症で、足にできる足白癬 (水虫)、爪にできる爪白癬、手にできる手白癬、陰部にできる股部白癬 (いんきんたむし)、頭部にできる頭部白癬 (しらくも) など、それ以外の体幹にできる体部白癬 (ぜにたむし) など、いろいろな種類があります。足白癬はバスマットやスリッパなどからうつることが多いです。またここ数年、日本各地でトリコフィトン・トンズランスという新しい白癬菌が外国から持ち込まれ、柔道をはじめとする格闘技選手の間で流行していることが問題になっています。この病気は特殊な病気ではなく、格闘技選手のみならず、家族内感染により主婦の方にも感染がみられています。この新しい白癬菌は体・頭に寄生しやすいため、ぜにたむし・しらくもという症状をおこします。家族に格闘技選手がいる場合には、あやしいと思う皮膚の症状を見つけたら近くの皮膚科専門医を受診してください。治療は抗真菌剤の塗り薬を使いますが、範囲が広い場合や菌が深くまで侵入している場合は飲み薬が中心となります。また爪白癬の治療法として以前は抗真菌剤の飲み薬しかありませんでしたが最近になって爪白癬専用の抗真菌剤の塗り薬が登場しました。

### カンジダ症

カンジダ菌は、口の中、消化管、膣などに常在しているカビです。皮膚カンジダ症は、股部・陰部・オムツ部・手指の指の間など、湿ってこすれやすい場所にできます。境界が余りはっきりしない、じくじくした紅い皮疹としてみられ、その中や周囲に小さい水ぶくれや膿が多数見られます。軽い痒みを伴うことが多いです。免疫力が低下した人がかかりやすいです。治療は抗真菌剤の塗り薬を使います。